

環境放射能調査結果

(令和4年4月～9月)

令和5年2月1日
佐賀県環境センター

環境放射能調査について

- 玄海原子力発電所周辺の放射線及び放射能を監視するため、玄海原子力発電所1号機運転開始前の昭和47年度から実施しています。
- これまでの調査では、玄海原子力発電所に起因すると考えられる放射線及び放射能の異常は認められていません。
- この調査では、専用の機器を使って、主に大気中の放射線(①)と、野菜や魚、水や土などの環境試料に含まれる放射性物質の量(②)、大気中の塵に含まれる放射性物質の量(③)を測っています。
- 各調査項目には、過去の測定結果をもとに“調査めやす値”を設定しており、測定結果がそれを超えるような場合には、原因を詳細に調査します。

調査めやす値

- ・平常時の値の範囲(平常の変動範囲)
- ・過去の最大値

①空間放射線の測定地点

モニタリングポスト
【今村局：玄海町】



常時監視地点※

1	今村局	14	加倉局
2	平尾局	15	呼子局
3	串局	16	馬渡島局
4	先部局	17	加唐島局
5	外津浦局	18	向島局
6	京泊先局	19	小川島局
7	屋形石局	20	ニタ子局
8	大良局	21	山本局
9	諸浦局	22	波多津局
10	入野局	23	田野局
11	寺浦局	24	相知局
12	名護屋局	25	松浦局
13	石室局	26	立花局

※ この他、発電所敷地内に九州電力の常時監視地点としてモニタリングポストが4地点、放水口モニタが3地点ある。

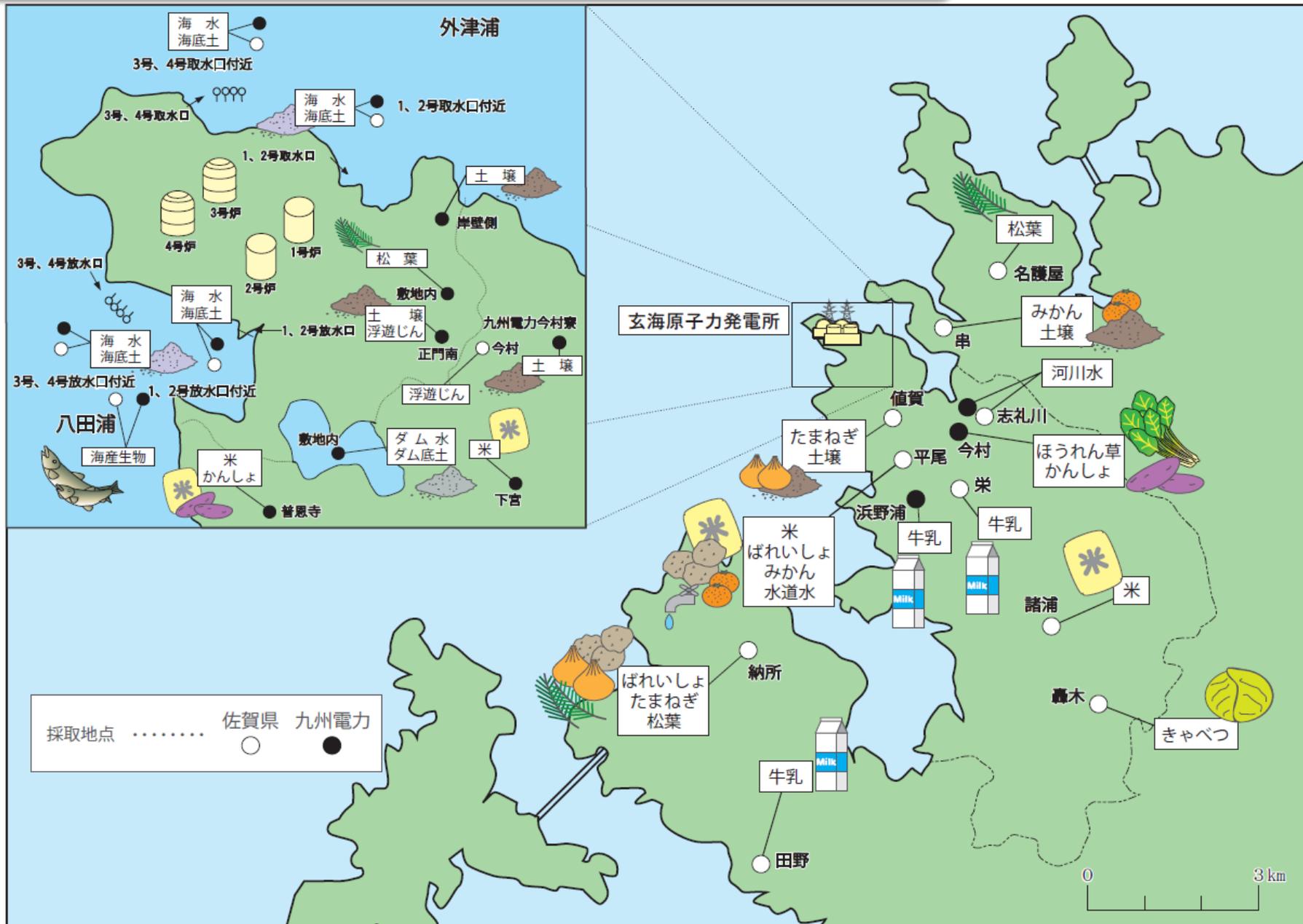


モニタリングポスト

主な走行サーベイルート



②環境試料、③大気浮遊じんりの主な採取地点



令和4年4月～9月の調査結果

① 空間放射線

空間線量率、放水口計数率で、調査めやす値を超えたものがあったが、降雨によるものであり、玄海原子力発電所に起因すると考えられる放射線の異常は認められなかった。

② 環境試料中の放射能

いずれの試料も調査めやす値を下回っており、玄海原子力発電所に起因すると考えられる異常は認められなかった。

③ 大気浮遊じん中の放射能

いずれの地点も放射性物質は検出されず、異常は認められなかった。

令和4年4月～9月における玄海原子力発電所周辺地域での環境放射能調査において、玄海原子力発電所に起因すると考えられる放射線及び放射能の異常は認められなかった。

⇒ 調査めやす値を超えたものがあった ① 空間放射線について、原因調査の一例を説明。

① 空間放射線の測定結果（めやす値を超えた例：先部局）

空間線量率（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）

先部局（令和4年4月～9月）

（単位：μGy/h）

測定値	調査めやす値（※）	調査めやす値を超えた割合	過去最大値
0.030 ~ 0.086	0.044	1.78 %	0.108

約0.1マイクロシーベルト/時間

↑ 約200分の1

事故時の避難基準
20マイクロシーベルト/時間

※「調査めやす値」は、過去の調査結果から算出した「平常の変動幅」の最大値。

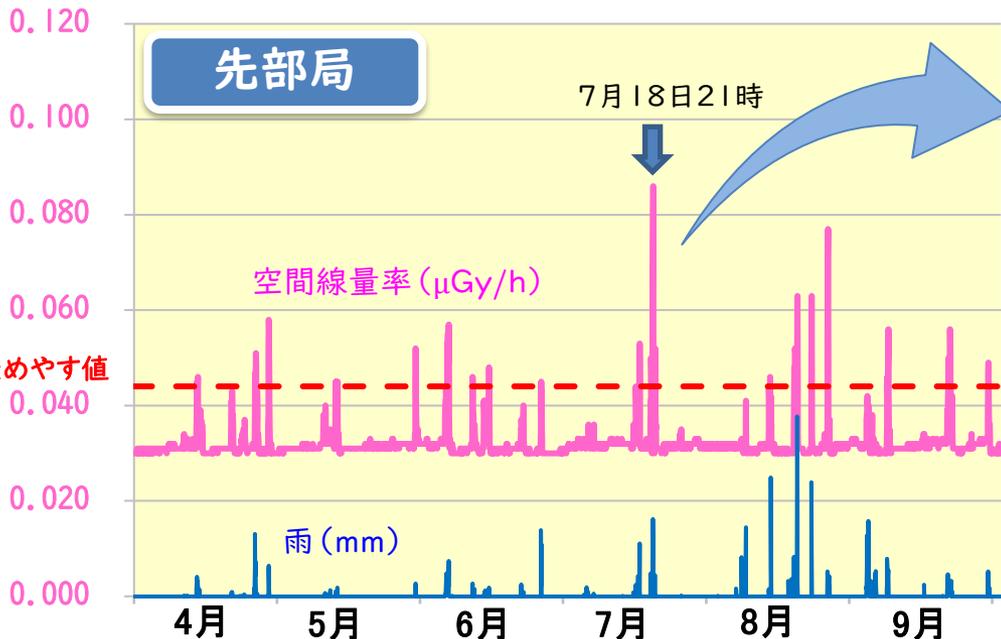
空間線量率は、降雨と連動して上昇しており、調査めやす値を超えた要因であることを確認した。

（降雨と連動した値の上昇例）

【令和4年7月18日 6時～7月19日 5時】



空間線量率（μGy/h）



調査めやす値を超えたその他の地点についても同様に、降雨によるものであることを確認した。